

IT を活用した社員の主体的なプロボノ活動の展開

NEC および NEC グループ NEC プロボノ倶楽部 社員ボランティアの皆さん

【パートナー団体:社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 他】

■活動の目的:

NEC グループの NEC プロボノ倶楽部は、業務で培った様々なスキルや経験を社会課題の解決やまちづくり、SDGs など、公共善のために活動している。社員が自ら創起し、NEC グループ社員仲間と運営を行う自主自立の活動組織である。様々な課題を持つソーシャル系 NPO 法人や団体などの課題解決を目的とした併走・伴走から、各団体の自走・自立までを促す支援活動を展開している。

■活動を始めたきっかけ(活動開始:2020年9月):

コロナ禍で多くのソーシャル活動団体がコミュニティでの活動が困難になり、子供や高齢者など、社会的に弱い立場にいる人たちが孤立してゆく状況を救いたいと、社内の仲間に呼びかけた。ちょうど、在宅勤務やリモートワークが浸透し、働き方改革により業務中でのボランティア参加も可能となった。また、越境学習活動や社外マルチキャリア、D&I 体験、社会や人とのつながりを求める機運等が急速に高まっていた。

■活動内容(プロボノ活動登録者数 455 名):

- 1) **運営体制:**自ら志願したボランティア社員が中心となり、自主的に運営しており、会社の CSR 部門が後方支援をしてくれている。
- 2) **支援先の選定:**地域の社会福祉協議会(社協)や市民活動センターなどの中間支援組織や行政から支援先を紹介してもらい、支援先と事前に面談し、活動の目標設定を行っている。
- 3) **社内 IT インフラ環境を最大限活用:**社内 IT インフラ環境を最大限に活用して運営している。
- 4) **支援先と社内ワーカー・チームをマッチング:**支援先のボランティア募集を社内 HP や SNS で情報発信する。事前に登録されたプロボノ・スキルのデータを活用してチームを作り、支援先とマッチングしている。
- 5) **プロボノ・ニーズの情報収集と活動の企画立案:**事前に登録された社員の情報や社内 SNS での書き込み履歴などから、社内のプロボノ・ニーズを把握し、関心のあるテーマやそのポテンシャルを分析。社員が参加しやすいように、活動のシナリオを作り、タイムリーに呼びかけている。
- 6) **活動報告会・勉強会の開催とノウハウの蓄積:**定期的に社内外において活動報告会や振り返りの会、勉強会を開催することによって、活動のノウハウの継承を行い、活動の品質向上やリーダー



一育成用のデータ管理をしている。

- 7)プロボノ活動の例:①支援要請が多い領域は、IT ツール活用や情報セキュリティの勉強会、学生のアイデアのブラッシュアップなど。②専門性が高い領域は、こども宇宙教室、オンライン配信、地域共創ワークショップ運営など。③付加価値が高い領域は、プログラミング教室、SNS 活用、動画編集、YouTube 配信など。④弊社としての特徴のある領域は、オンラインボッチャの機材開発と普及など。
- 8)会社との共存・共栄の関係:会社側の立場や期待を理解し、活動目標を共有する。企業活動にも貢献できるプロボノ活動を目指している。会社も支援先も参加社員も「三方よし」の関係が成立する活動が望ましい。
- 9)全国各地でソーシャル・インパクトある活動を展開:①川崎市社協や行政職員向けのオンライン会議についての勉強会を開催し、その後、職員が主催する勉強会が拡大している。②高校生との共創で、全国社会課題解決コンテスト入賞および SDGS 活動大賞を受賞した。③行政や地域、他の企業や学校と連携したプロボノ活動を展開している。④東京都ラジオ体操プロジェクトに NEC 社員と地域住民、行政職員が参加し、126 回毎週連続で開催している。

■活動の成果

①2020 年 9 月より2年間で、全国 52 団体の社会課題に対応した。プロボノワーカー583名が参加。②コロナで困窮している 200 団体を支援した。また、保育士会 200 名向けに IT ツールの勉強会とイベントを運営した。受益者は 500 名を超える。③オンライン・ラジオ体操を、毎週連続 126 回開催した。全国の受益者は累計 3,000 名以上。④中高生の探求学習授業を支援した。受益した中高生は約 400 名。⑤地域共創イベントを自主開催した。来場者は約 1,000 名。⑥かわさき SDGs 大賞 特別賞を受賞。⑦豊島区90周年の広報誌に、SDGs 関連の記事で、支援活動が紹介された。

■強調したいこと:

- 1)社員の主体性:プロボノ活動には社員が主体的に参加しており、そのプロボノ活動の企画や支援先とプロボノワーカーとのマッチング、プロボノ活動のサポートなどの運営も、社員がボランティアとして行っている。こうした社員主体の活動を会社が支援している。
- 2)社会・非営利団体のニーズに対応:各地の社協や市民活動センター等の中間支援組織と連携し、プロボノによる課題解決のニーズが高い団体を支援している。
- 3)社員の参加しやすさ:オンラインでの活動が基本であり、オンライン会議や社内 IT ツール・SNS ツールを駆使しているため、居住や勤務地における参加が可能。また、支援先の課題解決のシナリオ案を提示し、活動の社会的価値を可視化している。社内 SNS を駆使して、ボランティアの募集を行い、活動の動画撮影を共有している。また、仕事や家庭の事情で活動に参加できない場合はチームとして対応している。



4)企業リソースや社員のアイデアの活用:支援先とのマッチングのための社員ボランティアに関する情報や活動履歴、ノウハウはデータベース化している。また、活動の議事録や振り返り、納品物はすべてデジタル化して共有している。活動のノウハウ伝承を行い、PDCA を重ねる中で、活動の生産性の向上が常に図られている。

第8回企業ボランティア・アワード『大賞』